帝国の巨龍（ドラゴン）と対決する新青年たちの運動は可能か

作者：湯若望、翻譯：翁營
原文：https://bit.ly/3mbk4nm

陳独秀は 1921 年の中国共産党結成の前、1916 年に雑誌『新青年』を創刊し、新しい青年世代に向けて個人的自由、民主主義、社会主義を追求する新しい思想の啓蒙を行った。その３年後、この新しい青年世代は帝国主義の侵略と弱腰の北洋政府に抵抗する五四運動をおこして、さらには新文化運動を推し進めた。その後、陳独秀は結成まもない中国共産党を率いて 1925 年から革命運動を推進した。しかし 2 年後に革命運動は［国民党の裏切りによって］敗北を喫し、間もなくしてソ連のスターリンからも迫害されることになった。あれから 100 年が経過し、さまざまな面において進歩的な変革が実現したが、中国人民は個人的自由の権利と政治に参加する権利を有する「市民」ではなく、依然として「臣民」のままである。

「刈り取られるニラ」から「使い捨て人材の鉱山」へ（※１）

1949 年からごく最近まで、次々に新しい世代の「新青年」たちが自らの権利を訴えてきたが、中国共産党政府によって弾圧されてきた。この党の反動的なありように、墓の中の老陳独秀先生も寝返りを打って拒否されていることだろう。表面的には、多くの中国人は自らの権利の拡大を求める勇気を失ってしまったかに見える。インターネット上では自嘲気味に自分たちのことを「ニラ」と呼んでいたりする。「ニラ」は収穫されてもまた同じ株から農民が収穫をくりかえすことから、共産党の枯渇することなき搾取の対象という存在を甘んじて受け入れている状態を言う。こうした自己表現は中国人の極度の卑下を表している。ある外国人のブログ（原注１）では、今日の中国がさらに進んで「収穫されるニラからさらに使い捨て人材の鉱山への変遷」を分析している。

> 「2022 年末には、伝統的な『人民』という呼称の別の呼び方が流行している。『人材鉱山』は 80 年代初頭に使われ始め、中国の労働者人民の青春が消耗させせられていく様を描いており、いまでは広く使われている。」
>
> 「20 年間学校で学び、30 年間マンションのローンを返済し、20 年間病院でお世話になる。」

2022 年 10 月末、鄭州フォックスコンの多数の労働者が、コロナ感染が深刻なまま隔離生産体制が続けられていた工場のフェンスを幾重にも破って逃避行を決行した。11 月 24 日のウルムチ火災を受けて、ゼロコロナのロックダウン政策に対する抗議の嵐が全国で巻き起こった。インターネットではそれを称えるこんな書き込みもあった。「みて！ニラも造反してる！」

中国共産党政権のゼロコロナ政策は 180 度の急展開をみせ、抗議行動は一時的に鎮静化した。だが、抗議活動に参加した人々は考えることを鎮静化させてはいない。未来の抵抗の種はすでにまかれているのだ。そのなかでも若者たちはもっとも顕著な存在であり、今後もニラのままで甘んじることはないだろう。中国国内の民衆がアクセスることは難しいが、海外に留学している中国人学生らはインターネット上で抗議の声を上げ、激しい討論を続けている。

China Deviants　（中国異論派）

（白紙運動の）抗議行動のピーク時には、海外の中国人学生らは少なくとも 16 か国で支援行動を行った。このときの行動がその後の学生同士の交流と組織化への試みにつながっている。短期間のうちに、数多くの公式の、あるいはプライベートなネットワークが形成され、抗議活動や情勢について議論された。イギリスでは China Deviants（中国異論派）という SNS チャンネルが立ち上がり（原注２）、講演会やイベント活動などが組織されている。2 月 5 日にはコロナウィルスの危険をいち早く訴えた李文亮の逝去 3 年を記念する活動が行われ、ニューヨークや東京など 10 の都市で同じような活動がおこなわれた。China Deviants には 1250 名の登録者がいる。もっと多くの参加者のいるチャンネルもある。たとえば「学習壁国」（※２）には 5 万 4200 人の登録ユーザーがいる。これらのチャンネルは北京政府を批判し、逮捕されている人々を支援する等、極めて強い政治性を有している。

もう一つの共通点は、中国政府に支配され抑圧される全ての少数民族（チベット、ウイグル等）や香港人に支援の手を差し伸べていることである。抗議活動期のピークにそれらを確認することができた。SNS メディアに流れる映像や画像では、これまで少数民族が受けてきた苦難に対して、漢民族であった自分が何ら手を差し伸べなかったことへの後悔がみられた。これらの人々は当初、少数民族の苦難は漢民族とは無関係だと思っていた。しかし新型コロナ下のロックダウンと、それに伴う基本的人権の喪失が、人々に新たな思考を迫り、民族を超えた共同の抵抗を求めることになったのである。このような状況は海外の中国人留学生のあいだで発展し続けている。China Deviants のスポークスパーソンは「流傘」（※３）のインタビュー（原注３）で次のように語っている。

「新疆ウイグルやチベット、そして台湾についていえば、そこが遥か彼方の地域だということではありません。そこには普通の中国人が日常生活の中で常に接触する現実の地域なのです。これらの地域の人々をリアルに感じ、血の通った人間とみなし、同じように尊厳のある充実した生活を送る権利があると考えること、このように理解することで、政府の宣伝がかれらを非人間化していることに気が付くことができました。そして『中国は統一しなければならない』や『大団結』などといった事大主義的で空虚な概念を放棄することができたのです。」

中国共産党はこれまでずっと、漢民族とそれ以外の少数民族を対立させることに成功してきたが、現在それは草の根からの挑戦に直面している。この現象は若い世代の政治化のはじまりに過ぎない。現在は「左」と「右」の違いに関する議論が登場している。しかし一般的には「性急に自らの政治的傾向を決めることはしない」という状況が支配的である。China Deviants のスポークスパーソンは次のように語る。

「ですが、中国とその周辺地域の問題をどのように解決すべきかについてはいろいろな意見があり、私たちはいまのところそれらの分岐に明確な対立線を引こうとは思っていません。民主的枠組みやプロセスがあれば、これらの分岐は公開かつ誠実な協議を通じて議論されるべきです。現在の問題は分岐そのものにあるのではなく、このような議論の枠組みとプラットフォームが欠如していることにあります。その原因は、この数十年のあいだ、中国共産党が自らの支配を維持するために粛清を繰り返し、政治的議論を空洞化させ、社会の人々を孤立させアトム化させてきたことにあります。」

ストライキの隊列に参加したアメリカの華人学生たち

中国系移民の組織化を望む西側左翼もいる。いっぽうで、西側社会の不公平それ自体が、中国系学生ら、とくにチーティングアシスタント（TA、大学教員の補助をする学生労働者）たちは、西側社会の階級闘争を理解し、その経験を共有化している。これはすでにアメリカでみられる現象となっている。2022 年 11 月中旬、カリフォルニア大学では数千名の研究労働者が 6 週間にわたるストライキを打ち、待遇改善をかちとった。「流傘」の別の記事（※４）では次のように報じている。

「今回のストライキには多くの中国人留学生の TA も参加した。これまでの中国人留学生の印象は、政治には無関心で、アメリカ社会の問題にも距離を置いていた。中国国内での状況や世界の状況と同じように［それまでは孤立していたが］、多くの中国人がはじめて独立した政治組織に参加し、問題のある労働契約に対してストライキという組織的方法で態度を示したのである。」

「・・・研究機関における不安定な身分が中国人留学生の新たな政治的啓蒙となり、無数の研究者と活動家の組織が形成された。たとえば『Chinese Students and Activists Network（中国人留学生とアクティビストネットワーク）』、『結縄志（Tying Knots)』、『離離草（The CAO Collective)』などである」（原注４）

前途は遼遠である。考えてもみよう。中国は恐らく世界で唯一のグローバルな強権国家であり、国内には明確な公然たる反対派組織も存在せず、公然たる反対派の指導者もいない（劉暁波は獄中で死亡したが、ロシアのアクレセイ・ナワリヌイは獄中にいるがまだ健在)。中国には自律的な労働者組織もないし独立メディアもない。権利が保障された市民的空間もない。継続した社会運動が存在できず、社会運動は孤立し、弾圧によって容易に忘れ

去られた。中国では、独立して保存された社会運動の歴史もなく、こうして、過去の経験が適切に継承されることもなかった。新しい世代のアクティヴィストは常にゼロからのスタートを余儀なくされてきたし、多くの誤りに直面してとん挫すると、すぐに姿を消していった。

2022 年 10 月末、ロンドンの中国人留学生たちがはじめて抗議行動を組織した時、主催者は拡声器を使ってはいたが不慣れな様子だった。香港の学生たちの場合はそんなことはなかっただろう。拡声器など各種機材を使った街頭での抗議行動などお手の物だからだ。このロンドンでのアクションでは歌を歌おうと主催者から提起があり、一曲目は「Do you hear the people sing?」（民衆の歌）を歌い、次に主催者は「インターナショナル」を歌おうと提案したが一部から不同意の意見が表明された。けっきょく歌われはしたが、全員が歌ったわけではなかった。この二つの歌の他にも香港のロックバンド Beyond の「海闊天空」（日本語版は「遥かなる夢に」）を合唱し、2022 年末の中国の抗議行動において流行した歌曲となった。中国の民主化運動は現在にいたるまで公式の主題歌がない。なぜならそれが流行る前に運動が潰されてきたからだ。他の形式の抵抗芸術もそれほど豊富ではない。抵抗文化の貧しさは集団的記憶と思考の乏しさを反映するが、それは全体主義国家が作り出した状況にほかならない。昨年末の抗議行動は、抵抗歌曲の創造を鼓舞したし、それが急速に飛躍的に発展することを願ってやまない。（たとえば Yinfi Lu の歌曲）（原注５）

課題とチャンス

マンチェスターの友人によると、そこで初めて開かれた中国人留学生らの抗議行動に参加したが、中国人学生らはとても緊張していたという。それが初めて参加した抗議行動だったということのほかに、中国人同士でも不安を感じていたという。なぜなら互いに初めての出会いだったからだ。SNS メディアの技術的進歩によって、誰変わらない相手とスマホのアカウント名をつかって深い議論ができるようにはなったが、実際に顔を合わせたときには、やはり安全面での不安があった。この状況は、われわれ中国人が当局からの報復を恐れており、互いの身分を明かしたうえでの協力には非常に慎重だということを、改めて明らかにしている。そしてそれはアトム化を助長する。イギリスに留学している中国人留学生約 13 万人のうち、わずか 1000～2000 人くらいしか抗議行動やその他の活動に参加したことがないことは言うまでもない。

とはいえ、抵抗のスタートラインは 1989 年の時よりも高いかもしれない。1989 年の大学生の対部分は、労働者が闘争に参加し始めたとき、当初は不審な目で接していたし、少数民族に対する同情を示す人も極めて少なかったからである。それに比べると 2022 年の新青年たちは、すべての被抑圧者との連帯を渇望していた。2022 年の新青年たちが今後政治的な鍛錬を経て、再び北京の巨龍と対決する日が来るのだろうか？

2023 年 2 月 27 日

（原注１）https://chinaheritage.net/journal/xi-jinpings-harvest-from-reaping-garlic-chives-to-exploiting-huminerals/
（原注２）https://blog.chinadeviants.org/about/
（原注３）https://lausancollective.com/2023/chinas-politicised-youth/
（原注４）https://www.csanetwork.org/
https://tyingknots.net/
https://caocollective.com/Who-s-CAO
（原注５）https://www.facebook.com/yinfimusic

※訳注

（※１）原文は「從韭菜到人礦」。直訳は「ニラから人間鉱山へ」。「韭菜（ニラ）」はもともと株式用語で、大株主が損切りする際に一緒に損を被らされる個人投資家を指した。ニラは一度刈ってもまた生えてくるように、株式投資で損切りされても初心者の株式投資家はすぐに集まることからこう呼ばれた。その後、「無残に切り捨てられる」という意味で使われるように。ニラを刈る鎌が中国共産党を意味する暗喩でもある。「人礦（人間鉱山）」は労働力として必要な時には好きなように使われ、使用価値がなくなれば使い捨てされることを指した。近年、中国の炭鉱など鉱山は危険かつ環境汚染をまき散らしながら掘るだけ掘ったあとは放置されたり規制によって閉山されたりする現象が広く見られたことから使われた。

（※２）テレグラムチャンネル「学習壁国」は、直訳すれば「壁に囲まれた国を知る」という意味。「壁国（壁に囲まれた国）」と「強国」は同じ発音で、中国のことを指している。https://t.me/XueXi_China

（※３）2019 年の香港反乱のさいに立ち上がった在外香港人左派のプラットフォーム。ウェブサイト https://lausancollective.com/

（※４）Organizing from below: Chinese international student workers and the UC Strike
https://lausancollective.com/2023/chinese-student-workers-uc-strike/

新青年對戰帝國龍？

作者：湯若望
翻譯：翁營
原文：https://bit.ly/3mbk4nm

陳獨秀在 1921 年成立中國共產黨之前，在 1916 年創辦了《新青年》雜誌，教育新一代追求個人自由、民主和社會主義的新思想。三年後，新一代青年發動了五四運動，反抗帝國主義的侵略和懦弱的北洋政府，更促進了新文化運動。不久，陳獨秀在 1925 年領導新近成立的中國共產黨進行革命，但兩年後慘敗，並很快被蘇聯的史達林貶逐。一百年過去了，儘管在許多方面取得了進步，中國人民仍然是 「臣民」，而不是擁有個人自由權利和參與政治的權利的「公民」。

從韭菜到人礦

自 1949 年以來，直到最近幾年，一代又一代的「新青年」不斷起來要求他們的權利，但都被中共嚴厲鎮壓－如今這個黨如此反動（reactionary），會讓陳老先生在墳墓輾轉反側。然而，從表面上看，大多數中國人似乎已經失去了伸張自己權利的勇氣。網民自嘲「韭菜」-默認被黨視為可供剝削而又永不枯竭的資源，就像農民可以無休止地收割韭菜。這種自我形象也反映了中國人的極度自卑。一位外國人博客這篇文章追溯今天的中國是如何進一步「從收割韭菜演變到開發人礦」(原注 1)。

> *隨著 2022 年的結束，另一個形容「人民」的老詞又重新流行起來。「人礦」首次出現在八十年代初，被廣泛用於描述中國勞動人民的被耗盡青春：*
>
> *讀 20 年書，還 30 年房貸，養 20 年醫院。*

然而在 2022 年 10 月底，成千上萬的鄭州富士康工人衝破重重障礙，逃離了被嚴重疫情和感染恐懼籠罩的廠區。11 月 24 日烏魯木齊大火之後，抗議浪潮席捲全國，反抗清零政策的「禁閉」措施。一些網民感歎道：「看！連韭菜都會造反！」

中共的清零政策 180 度急轉彎後，抗議活動暫告一段落。但抗議活動中那些有思想的人並沒有停止思考，未來抵抗的種子已經播下。年輕人是這群人中最顯眼的部分，他們不再容忍自己是韭菜。那些海外的中國學生正在發聲－大聲抗議並在網上激烈討論，雖然國內民眾不易聽到。六四屠殺後長達三十年的政治冷漠，終於被「2022 年白紙運動」結束了。

China Deviants （中國異見者）

在抗議活動的高峰期，中國海外學生在至少 16 個國家發起了廣泛的聲援行動。這也迫使學生們至少要互相交流，並試圖組織行動。在很短的時間內，許多公共和私人通訊管道建立起來，談論中國的抗議活動和局勢。在英國，一個名為 China Deviants 的公共電報群組（原注２），組織特邀討論會和發起公共活動，如 2 月 5 日紀念新冠肺炎吹哨人李文亮逝世三周年 - 類似的活動也在從紐約到悉尼和東京的其他十個城市舉行。China Deviants 有 1,250 名訂閱者。其他討論頻道有更多的使用者，例如「學習牆國」有 5.42 萬用戶。這些頻道具有很強的政治性，包括批評北京、聲援在中國被捕的人士。

另一個共同點是他們勇於向中國統治下所有受壓迫的少數民族 - 藏族、維吾爾族、香港人等伸出援手。在抗議活動的高峰期，我們已經看到了這一點。社交媒體上流傳著一些視頻和截圖，內容是漢族人為自己對少數民族的苦難無動於衷而感到後悔 - 他們當初還以爲這些苦難與漢人無關。然而，新冠疫情下的封控措施和他們基本人權的喪失，迫使他們重新思考，甚至渴望大家能跨民族的共同反抗。這在中國海外留學生中繼續發展。China Deviants 的發言人在接受流傘的採訪時這樣說：

就新疆、西藏和臺灣而言，它們不是遙遠的土地，而是普通中國人在日常生活中經常接觸的真實地方。把這些地區的人民看作是真實的、有血有肉的人，他們同樣有權過上充實的生活 - 這種理解使我們認識到，政權通過宣傳是將他們非人化而已，也使我們放棄了所謂「中國要統一」和「團結」的高大空概念。

中共一直以來成功地將漢族人與所有其他少數民族對立起來，現在卻第一次面臨從下而上的挑戰。雖然這只是年輕一代政治化的開始。現在開始出現關於「左」和「右」的區別的討論，不過，普遍的情緒似乎是「不急於確定自己的政治傾向」。上面提到的 China Deviants 發言人說：

不過，對如何解決中國及其周邊地區的問題有不同看法，我們現在暫時不想在彼此之間劃清界限。若存在民主框架和程序，這些分歧應該由所有人公開和誠實地商議。現在的問題不是我們有分歧，而是我們沒有一個討論的框架和平臺，因為幾十年來，中共為了維持他們的統治而進行鎮壓、清空政治討論，使到社會的人變成孤懸的原子。我們必須為自由和民主的討論和決策創造一個空間。

美國華裔學生工加入罷工行列

有些西方左翼很想爭取這些青年華裔。但另一方面，西方的社會不公本身也在迫使越來越多中國海外學生，特別是學生工，了解到西方的階級鬥爭，從中總結經驗。這似乎已經在美國發生了。去年 11 月中旬，加利福尼亞大學的數千名學術工作者進行了為期六周的罷工，爭取改善待遇。根據流傘的另一份報道（原注３）：

> *在這次罷工，許多中國留學生工人也參與其中。在人們的刻板印象中，這些人不關心政治，與美國問題脫節。像他們的國內和其他國際同行一樣，現在許多人第一次參與了獨立的政治組織，並對有爭議的合同和罷工的組織方式表達了不同的態度。*
>
> *…. 學術界中的不穩定性在中國留學生中產生了新一輪的政治啟蒙，導致了大量的學者-活動家團體的形成，如中國留學生與行動者網絡 (Chinese Students and Activists Network)、結繩志 (Tying Knots)、離離草 (The CAO Collective)等等。(原注４)*

前路漫漫。想想看 - 中國可能是世界上唯一的地球强國，是沒有任何明顯的有組織的反對派，或者任何公認的反對派領袖的（最後一個劉曉波早就死在監獄裡了，而俄國的阿列克謝-納瓦爾尼雖然蹲在監獄裡但還健在）。它也沒有任何自治的勞工組織，或者任何獨立的媒體，或者任何受保障的公民自

由空間。因此，不間斷的社會運動從來不存在，只有孤立的社會行動，但在被鎮壓後很容易被遺忘。在中國，幾乎沒有任何獨立保存的社會運動歷史，因此沒有任何過去的經驗被適當地傳承下來。新一代的活動份子總是被迫重零開始工作，在許多錯誤中跌倒，再迅速被銷聲匿。

2022 年 10 月底，當倫敦的中國海外學生發起第一次抗議活動時，那裡的主持人在使用擴音器，但看來是生手。香港的大學生則早就習慣上街抗議，習慣使用各種器材。在倫敦這次示威，中國學生發言後，主持人建議唱歌，首先是 Do you hear the people sing? （音樂劇《悲慘世界》的主題曲「你可聽見人民在歌唱？」），然後她建議唱《國際歌》，但有些人不同意，不管怎樣都唱了，但唱的人少了。這兩首歌和《海闊天空》（香港樂隊 Beyond 的歌曲）一起，在 2022 年底的中國抗議活動中成為流行歌曲。中國的民主運動至今都沒有公認的主題曲，因爲它在有機會發展出來之前已經死掉。其他形式的反抗藝術也比較少。抗議文化的貧乏反映了集體記憶和思維的貧乏，這本身是極權主義國家造成。去年的抗議活動確實鼓勵了抗爭歌曲的創作，希望這將很快得到飛躍性的發展（例如 Yinfi Lu 的音樂）。（原注５）

挑戰與機遇

一位曼徹斯特的朋友還告訴我，當他們參加那裡的第一次中國海外學生抗議活動時，後者很緊張 - 不僅因為這是他們人生中第一次抗議，還因為他們之間也很不安，因為這也是彼此第一次相遇。社交媒體領域的技術進步使人們能夠在不知道對方姓名或手機號碼的情況下行深入討論，但當實際會面時，安全問題總是令人擔憂。這再次提醒我們中國人因爲非常擔心被報復，所以對於公開合作都很小心，這無疑助長了原子化。更不用說在英國留學的 13 萬中國學生中，可能只有一兩千人曾經抗議過或參與過其他行動。

但他們反抗的起點可能比 1989 年那一代高。1989 年的學生，大部分幾乎從一開始就對工人的參與持懷疑態度，而且很少對少數民族表示同情。相比之下，2022 年的新青年則表現出渴望與所有被壓迫者團結一致的衝動。 2022 年的新青年，會否有機會在政治上成熟起來，再一次與北京龍對決？

2023 年 2 月 27 日

（原注１） https://chinaheritage.net/journal/xi-jinpings-harvest-from-reaping-garlic-chives-to-exploiting-huminerals/
（原注２） https://blog.chinadeviants.org/about/
（原注３） https://lausancollective.com/2023/chinas-politicised-youth/
（原注４） https://www.csanetwork.org/
https://tyingknots.net/
https://caocollective.com/Who-s-CAO
（原注５） https://www.facebook.com/yinfimusic

社運 • 無國界

香港・國際・民主百科　發表留言

英國的香港新公民社會

27 4 月, 2023

作者參加了英國的香港人討論會，認為一個新的公民社會正在形成。例如開始反思2019年運動的失敗在於無大台，亦和右翼本土主義保持距離，並且要連結英國其他進步價值的團體行動，不要再圍著政府轉動。 繼續閱讀

香港　1則迴響

台灣海峽戰雲密佈，左翼應如何構建反戰立場？

15 4 月, 2023

中共不願意放棄武統台灣，身為大陸的左翼和台灣的左翼，應該如何看待台灣海峽的危機？如何看待反戰及帝國主義？作者劉項有以下的主張，第一：中共是糟糕的統治者，不應由它來取代現有台灣政府統治。第二，應避以戰爭，不論是中國或台灣及美國主動發起都反對。第三，台灣有權用最低的武力捍衛其民主政體。 繼續閱讀

國際・大陸　發表留言

新青年對戰帝國龍？

24 3 月, 2023

這篇文章講述自習近平稱帝和疫情以來，中國的年輕人、學生、工人、留學生開始醒覺，參加更多勞工議題、政治議題的一面。 繼續閱讀

大陸　發表留言

風雨中的草根團結：2022年六大工人維權行動盤點

6 2 月, 2023

编按：文章來自https://newsletter2.laborinfocn.c …
繼續閱讀

國際　發表留言

轉載：學生為甚麼應該支持UCU罷工？

1 2 月, 2023

以下是我們為最新一輪UCU（英國高等教育工會）教職工罷工製作的宣傳單，英國高教界UCU罷工，是因為已經對多年來工資追不上通脹，英國高等學校削減教學資源，增加教師工作壓力，工作零散化，以及英國學校高層肥上瘦下，已忍無可忍了 繼續閱讀

ENG・大陸　發表留言

Why did Foxconn Workers' Protests in Zhengzhou Happen: The Seven Evil Deeds of Foxconn, the CCP and Apple

14 1 月, 2023

The Chinese original article is here. Through carefully reviewing the whole processes of the author indicted the collusion between the Foxconn, the CCP and the Apple being responsible for the horrible situation which led to the outbreak of the protests. 繼續閱讀

https://borderless-hk.com/